

ヒアリングで得られた酒田港に対する課題、要請等 への対応

○対応時期の言葉の定義について

対応中 : 実施済み、あるいは現在対応中の課題

短期的課題 : 概ね、1年程度で対応すべき課題

中長期的課題 : 上記以外の課題

平成 28 年 6 月 29 日

元気で使いやすい酒田港検討会議

1. 物 流

< ① 静穏度について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
秋田港はある程度安全だが、酒田港は静穏度が悪いので飛ばして次港に行くことをやっている。静穏度確保が先決であり、それにより2隻同時着岸化も生きてくる。	国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所	第二北防波堤の延伸及び北防波堤の改良(天端高の嵩上げ等)を進める。	対応中
古湊のうち1号岸壁が一番波が立ちやすい。静穏度を高める必要がある。			
港内静穏度に関しては、波浪より風で荷役が止まるのことが一番のロス。風についてはどうすることもできないが。			
冬場の静穏度がもう少し高いと良い。			

< ② 2隻同時着岸について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
高砂ふ頭については、コンテナ船が1隻しか着岸できないのでは1日に複数入港するときの調整が困難。バース延伸により2隻着岸できるようにすることは必要条件だと考えている。	国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所	平成28年度予算にて、2隻同時着岸に向けた調査費により、土質調査、測量、設計、施工方法の検討を行う。	対応中
バースウィンドウは2隻同時荷役が必要となってくる。荷役できないとスケジュールが遅れてくる。風の影響を受けやすいので他港よりも余裕が欲しい。			
小さいコンテナ船が減っており、1000TEU積みの船が増えている。2隻同時に着岸すると、1000TEU×2隻が目安。1000TEU×1隻に小さい船1隻の着岸も考えられる。			
バースウィンドウは厳しい状況。水曜日に入れるつもりが、先着の船があり着岸できず、待たざるを得なかったこともある。酒田沖に逃げ場がないため、出港せず前港で待っていないといけない。2隻同時着岸出来ることを望む。			
スケジュール上の利便性という意味では、コンテナ船を2隻着岸られれば、コンテナ船が重なった時の作業性が違う。			

< ③ 荷役機械について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
トランスファークレーンの導入について、今後1年くらいで方向性を出す必要がある。リーチスタッカーだけでは6万TEUまでで限界。	山形県 民間事業者	関係者の参画した会議にて、トランスファークレーンの導入について、検討している。	対応中
トランスファークレーンの設置を目指してほしい。			

< ④ コンテナのメンテナンスショップについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
コンテナのメンテナンスショップについては、需要があるかどうか定かではない。	山形県 民間事業者	メンテナンスショップが日本海側にないことから、酒田港に設置した場合の利点や採算性等について、船会社や民間事業者と意見交換を行う。	短期的課題 ～ 中長期的課題 ※なお、メンテナンスショップを設置することにより⑩のコンテナバランスの解消につながることになれば、短期的課題として対応を急ぐ必要がある。
倉庫やコンテナメンテナンスショップについて、韓国へ送り返して修繕した方が安いという判断。メンテナンスショップはあった方がいいが、コストの面で難しい。			
コンテナのメンテナンスショップが必要である。メンテナンスを行う数が少なければペイしないが、現状、毎回、韓国から10～20本、直江津からも10～20本ほど綺麗なコンテナを持ってきており、酒田でメンテナンスが出来ればコストが削減できる。船社3社分合わせれば、採算性が出てくるのではないかな。			
コンテナのメンテナンスショップは、民間事業者ではペイできないのではないかな。ヤードの施設の一つとして必要なものであり、どこかが抱えないといけないと思うが。			
コンテナリペアショップの誘致			

< ⑤ 空コンテナ置場について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
現在の最大の課題は空コンの置き場がないこと。今後の貨物量増加を考えると、お手上げである。この半年で何とかしないと貨物が他港に流れてしまう。空コンを置くのはどこでも構わない。背後地にデポを作るなどお金をかけないやり方もあるのではないかと。簡易なアスファルト舗装で充分。緑地公園の駐車場でも良いのではないかと。	山形県 民間事業者	埠頭用地約3haを整備中であり、完成までの間、置き場が不足する場合は他の場所を一時使用させることを検討する。	対応中

< ⑥ 倉庫について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
今一番厳しいのは倉庫で、ある程度の規模の倉庫を用意していただければ、ある程度の上乗せの需要に対応できていると思っている。直近では、倉庫が無いので、秋田港や新潟港にも製品を運んだことがある。港のための倉庫がもっと必要。	国 山形県 酒田市 民間事業者	民間事業者が倉庫用地にできる港湾関連用地等の利用を促進する。 また、民間事業者の倉庫建設を促すための制度等についても検討を行う。	対応中
輸出をベースにしているが、帰ってきた空の輸送容器を一時的にストックする場所が必要。酒田港には倉庫が不足しているが、酒田港を拡充していく上で、機能的な観点から倉庫は必要。倉庫不足については各所からの要望。			
貨物量が多い時、一時的に倉庫が不足する場合がある。その際は、複数の倉庫に分散しないといけない。夏場に直射日光の影響で傷んだときがあったことから、コンテナヤードには置いておくのは怖い。船が集中するなど貨物量が多いと不安になる。			
ヤードよりも倉庫が足りない。			
県、市等の行政主導で倉庫は作れないか。リスクヘッジの観点もある。			
酒田港では、コンテナヤードのほか、倉庫が不足している。ニーズが明確であり、対応可能なのではないかと。			

< ⑦ 危険物上屋について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
危険物上屋(倉庫)が必要。港に危険物上屋があるのは全国で2港と、ハードルが高い認識はある。上屋は、コンテナ埠頭の積み込みしやすい場所を希望する。	山形県 民間事業者	専用の施設になるため公共上屋としての整備は不可能。 なお、ヤード拡張に併せ危険物専用エリアを設置予定。 関係機関と調整し、仮貯蔵による運用を行ってもらおう。	対応中
危険物倉庫が必要。 なお、仮置きをする時の仮貯蔵申請が必要であるが、コンテナに製品を入れてしまうと、それを危険物倉庫に入れた場合は、非常時の処理の関係から駄目だと言われている。そのあたりをはっきりして欲しい。			

< ⑧ くん蒸倉庫について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
コンテナヤードの中には、以前から提案されているくん蒸倉庫の設備を具体化してもらいたい。コンテナヤードにも、40ftコンテナ1、2本に対応できる規模の設備で構わないので、形にしてもらいたい。要望事項自体は何十年も前から上がっている。その他、税関検査で言うX線検査の設備も、今後取扱量の増加に対応するため、税関と調整してグレードの高いものを提案して欲しい。	山形県	本港地区くん蒸上屋の利用状況をふまえれば、ヤード内に新たに整備するのは、現時点では困難。	中長期的課題

< ⑨ 鉄道の活用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
貨物鉄道の活用も必要。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所 山形県	過去に調査を実施したが、長期的な課題と判断している。	中長期的課題
鉄道敷きは、線路自体が除かれているところもあるが、土地は残っている。北港まで伸ばすなど、それらを活かせば海への接続ができる。			
JR貨物とのドッキング。コンテナヤードまで鉄道を敷く。			

< ⑩ 輸出入コンテナの規格アンバランスについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
輸入企業が増えれば、コンテナのアンバランスが解消される。コンテナのマッチングによりヤードの無駄が解消されるほか、すぐに輸出入ができるようになるなど、酒田港が元気になる。	国土交通省東北地方整備局 (港湾空港部及び酒田港湾事務所) 山形県 民間事業者	国と県が連携してアンバランス解消に向けた検討を行う。	短期的課題 ※特に船社・港運事業者共に、大きな負担となっており、早急な対応が必要である。
40ftコンテナの代わりに20ftコンテナ2個を使えばいいが、ハンドリングコストも含め、全てにおいて20ftコンテナを使用する方が単位あたりコストが高くなる。だが、輸出入者の間で折り合いが付けば、空ではなく実入りでコンテナが行き来することになり、悪い話ではない。			
20ftと40ftのアンバランス。20ftの貨物を40ftで持ってくることは、コスト増につながるの船会社から声掛けは出来ないが、行政からの支援があれば可能性はある。			
輸出用の40ftコンテナを現状では全量釜山から回送しているなど、酒田港では40ftと20ftの輸出入アンバランスをどうするかが課題。可能性としては、現在、20ftコンテナで輸入を行っている荷主が、40ftコンテナに20ft分の貨物を入れて輸入することが考えられるが、荷主のコスト増となる。これをどう補填するか。			
40ftと20ftのアンバランス。40ftの輸入は、天津新港からくる不織布のみ。新潟、八戸、苫小牧から空コンを持ってきている。輸入は、20ftをやめて40ftを使うというのはいいか。コストアップ分は行政からの支援。40ftに積んだら減免とか、ハンドリングチャージ分を荷主に支払う等の措置が必要。			
20ftコンテナ2個を40ftコンテナとして使うには、積み下ろしコストや仕切り分の容積減の問題があり、簡単にはできない。ハイキューブ40ftコンテナと同コストで20ftコンテナを使用できるのであれば活用する意味はある。空コンテナの無駄な輸送を無くすために、20ftコンテナ2個と40ftコンテナで同じくらいのコストで扱えるよう、両者のコスト差分について環境補助など政策的な名目で支援を出すことについては、トータルコストで合えば可能性はある。			

< ⑪ 24時間荷役について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田港は早出もあまりできない。新潟港は夜に荷役をしてくれる。酒田港は融通性で劣る。	民間事業者	需要、採算性をふまえ対応を検討すべきもの。	対応中
24時間荷役をやって欲しい。秋田港は夜間荷役については対応してくれている。			

< ⑫ 岸壁の運用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
年間3～4隻のクルーズ船に加え、より大型のクルーズ船誘致の話がある中、古湊1号岸壁の貨物のローテーションをどのようにしていくかが港運会社との共通の課題。岸壁の調整・管理の話も会議で検討して欲しい。	山形県	酒田港港湾施設利用調整会議において検討する。	対応中

< ⑬ 農水産品の輸出について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
山形県からの輸出は、果物はもとより、酒や米を売り込むことも考えるべき。国全体もしくは東北一体としての取組も有効ではないか。			
海外への輸出は、HACCP(ハセップ)基準を満たしている工場が必要であるが、満たしているものは少ない。またハラール対応も必要になってくる。	国土交通省東北地方整備局(港湾空港部及び酒田港湾事務所)	東北地方整備局、県農林水産部局、県土整備部等の関係部局と連携し、必要な手続き、ハード整備を検討する。	短期的課題
庄内の農作物を海外に輸出すべきである。中国やロシアも近く、花きだけでなく色々なものが展開できると思う。酒田港を利用して輸出すべき。	山形県 酒田市		
農水産品の輸出について、米の輸出は難しいが、酒に形を変えれば良いと思う。			
農水産品の輸出については、リーファープラグが10本程度あるが、それに対応出来るかどうか。それなりの準備が必要。他方、輸入についても、キムチを酒田港から輸入すれば、牛丼チェーンなどが扱う可能性がある。	山形県	需要があれば整備を検討する。	中長期的課題
農水産品の輸出に関しては、酒田港に冷凍冷蔵倉庫がないことが課題。水産物の加工工場や、冷凍冷蔵倉庫があれば貨物は集まるのでは。リーファーコンテナもメンテナンスが必要。ユニットはすぐ壊れる。MGシャーシ(リーファーコンテナの電源が取れるシャーシ)もあればなお良い。	民間事業者	需要、採算性をふまえ整備を検討すべきもの。	中長期的課題

< ⑭ ポートセールスについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
都内でポートセミナーを開催してはどうか。最近では仙台や小名浜なども行っている。	“プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会	県内内陸部や近隣県でのポートセールス、都内での企業誘致セミナー等における酒田港のPRを行い、県内外からの集荷に努める。	対応中
酒田港を、安く便利に使えるということ、物流を生業としている方はもっとPRすべきではないか。輸出は難しいかもしれないが、輸入をきっかけとして酒田港の利用増加に繋がるのではないか。			
仙台からの貨物の取り込みを考えてはどうか。みなとICがあるのだから、高速道路をもっと活用して。			
国産材の輸出に関して、酒田港にも中国のバイヤーが何度か来ているが、切り出しからのコスト面で折り合っていない状況。今後は加工品も含めて、相手国のニーズに合ったものを輸出することを真剣に考えたい。受入れ側(輸入国)もリスク分散で輸入先を増やしたいという考えがある。山形県も検討会議のメンバーであるから、モノミクスというスローガンに具体的な方向性を出すべきではないか。	山形県	農林水産部局と連携し、検討する。	中長期的課題

< ⑮ 梱包業者の誘致について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
梱包などといった部分で、港がネックにならないようにすることが重要か。内陸の方で工業製品を送る場合、酒田港近辺では梱包するための倉庫が無く業者も見つからないのが課題。梱包のための施設が必要と思う。	民間事業者	民間事業者において、需要、採算性をふまえ整備を検討すべきもの。 なお、④メンテナンスショップ事業との兼用も検討すべきもの。	中長期的課題
輸出梱包会社の酒田への進出			

< ⑯ コンテナ航路について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
中国航路の場合、1週間で帰ってこられず2船体制となるので、中国ダイレクト航路を就航させるには他港での需要もポイントとなる。現状の航路は燃料の無駄などがなく、4港を回れてちょうど良い。	民間事業者	需要、採算性をふまえ検討すべきもの。	短期的課題 ～ 中長期的課題
日本海側では内航コンテナ航路がないので、海上コンテナ輸送を国内物流に活用することが出来ないのが残念。			
韓国・中国便だけでなく、東南アジアへの直行便や日本海側のフィーダー船があればいい。			

< ⑰ その他 >

内容	対応者	対応方針	対応時期
北港緑地は、本来、スポーツ施設として活用する計画の土地ではない。港が活況である現在、丸々ではないにしろ、港本来の目的である物流空間として利用してもいいのではないか。	山形県	土地利用のニーズをふまえ対応していく。	短期的課題
積み荷の検査中に、その近くを荷役機械が移動していることが危険ではないかと指摘されている。上屋のそばを通らないで管理棟まで行けるようにするなど、ゲートの位置を検討していかなければいけない。	山形県	高砂埠頭のヤード内利用計画について検討する。	対応中
可能であれば、45ftコンテナを扱える船社が来れば、45ftコンテナを使用したい。	国 山形県 民間事業者	ニーズをふまえ、対応していく。	中長期的課題
パイロット(水先案内人)の手当に苦労している。パイロットは2名の乗船が必要と定めているが、船長経験者が減り、資格者が非常に限定されている状況。酒田地区在住の船長経験者がおらず、関東から経験者が来て案内をもらっている。2名のうち1名は1年交替で名古屋港から応援で派遣されている。高齢化が進み、今後の見通しや資格者の補充などについて、継続的な取り組みを期待している。	民間事業者	大型クルーズ船など航行船舶の増加をふまえ、他港との共働の可能性も含めて検討されるべきもの。	中長期的課題
リーディングライトがあれば良いと考えている。石炭船のためだけには無理かもしれないが、クルーズ船にも使えるのではないか。	山形県	必要性和公共性について検討する。	短期的課題

2. 産業・エネルギー

< ⑱ 企業誘致について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田港に風力発電の製造設備や加工設備など、例えばメーカーのラインをそっくり持ってくれば、かなりの雇用の可能性がある。	山形県	引き続き、企業誘致活動を進める。	対応中
太陽光パネルが台風等で破損した場合を考えて、修理メーカーの誘致をする必要があるのではないか。また、廃棄する際のリサイクル(レアメタルの取り出し)ができるような体制が必要ではないか。	酒田市 民間事業者		

< ⑲ 土地利用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
開発行為に対する障壁が非常に高い。工業用地として開発され、さらに雨水排水処置がなされて初めて企業が進出できる。現状では、これ以上酒田港近辺で工場を建てようという者は出てこない。すぐに使える用地が無い。色々問題はあがるが、雨水処理が特に問題である。	酒田市 山形県	工業用地については、企業の進出に支障がないよう、開発を進める。	短期的課題
酒田港周辺の風力発電施設の建設可能地はほぼ飽和状態となる。事業者としては洋上に対する期待がある。	山形県	洋上風力に関し、関係者の理解が得られるような方法を検討する。	短期的課題

< ⑳ 再生可能エネルギー電力の災害時利用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田港が再生エネルギーの拠点であるという点をもっとアピールして欲しい。例えば再生可能エネルギーについて立地企業に安く供給することを企業立地促進策の一つにするとか、災害時には立地企業に再生可能エネルギーを優先的に供給することを約束するとか。	山形県 酒田市	実現の可能性について、電力会社を交えて検討を行う。	中長期的課題
再生可能エネルギー基地として、風力と太陽光がこれだけ誘致されている港はそれほど多くなく、リサイクルポートと相まって酒田港のPRポイントとしては高い。大きな独立電源が臨港部にあるという考え方もできるため、災害時の電源として検討してはどうか。			

< ㉑ 燃料調達時の酒田港利用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
米沢で平成30年1月にバイオマス発電施設が稼働し、燃料にヤシ殻を使用すると聞いている。できれば山形の港から輸入して欲しい。福島や新潟の方が距離的に近いかもしれないが、是非中長期的な港湾の利用の中で、頭出しをして欲しい。	山形県 “プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会	引続き酒田港の利用を働きかけていく。	短期的課題

3. クルーズ

< ②② クルーズ船の受入について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
クルーズ船入港時に、大規模店舗等で購入すると、酒田港に運んでもらえるなどの仕組みがあれば、小規模でも喜ばれるのではないか。(沖縄の郊外型免税店の例を参考に。)	“プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会外航ク ルーズ船誘致 部会	外航クルーズ船 の寄港を想定し ながら速やかに 検討する。	短期的課題
外航クルーズの場合には、CIQの体制整備やバスの手配が心配。外国人が実際入国するときの所要時間が多いようであれば課題。「おもてなし」としては、昨年夏の寄航時のように、花火を打ち上げるのもよい。			

< ②③ クルーズ船寄港時の観光について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田だけでは対応できないため、オール山形での対応が必要。	“プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会外航ク ルーズ船誘致 部会	外航クルーズ船 の寄港を想定し ながら速やかに 検討する。	短期的課題

4. 賑 わ い

< ⑭ まちづくりについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田駅前の景観を港的なもの(港に誘えるもの)にしたい。そこから港への町歩きの動線を構築したい。また、みなとオアシス酒田をロマンチックにライトアップしてはどうか。夜間の事故防止にもつながる。イメージとしては小樽の運河があるが、その酒田港バージョン。食とワインをモチーフにしても良い。	山形県	意欲的な民間事業者と調整を図りながら、実現可能なものから、取り組んでいく。	短期的課題 ～ 中長期的課題
港町のイメージを醸すプレジャーボートスポットの活用(有料試乗、周辺の散策路や釣り公園の整備)、マリーナの整備、ヨット教室。	酒田市 民間事業者		
港のデザインが統一されれば良い。小樽のようなデザインで、漁港としてではなく、(物流空間としての)埠頭というイメージが欲しい。			
海や港が見える場所に人が集まる工夫をし、酒田のまちづくりの旗印とすべき。	酒田市	「みんなでつくろう日和山のまち並みワークショップ」等で検討を進めている。	対応中
海の見える場所としての日和山をしっかりと整備すべき。			
港が見える日和山は、「酒田のへそ」のような場所。ここに新鮮な地魚料理を食べさせるレストランなどがあれば、かなりの集客があり、酒田の新たな観光の目玉になるのでは。そうした観点から日和山周辺の都市計画はもっと大胆に、根本的な対処があっている。折よく日和山頂上の売店が撤去されたので、まず月1回程度のマルシェなどを開き、新鮮な地魚を使った一品料理とスパークリングワイン、農水産物などを販売するような試みをしては。			

< ㊥ みなとオアシス酒田への接続(回遊性)について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
日和山公園とみなと市場は、道路や建物などで分断されており接続が悪い。繋がれば歴史を感じられる。昔、橋をかけるといった噂が流れたことがあった。松山の吊り橋のように、それを目当てに人が集まってくることも考えられる。	酒田市	現状では、整備の予定、構想はない。	—
港に人の流れをどう誘導するかが重要。山居倉庫から水上タクシーなどで運ぶ案もある。	山形県 酒田市 民間事業者	「街なかサインの検討」等で検討していく。	短期的課題 ～ 中長期的課題
海鮮市場周辺に人を集めるため、山居倉庫とみなとオアシスを結ぶ連絡船があっても面白い。無料バスを走らせるよりも効果的かも。			
観光客にみなとオアシスまでの道が分かりづらいのが問題。ロングトレイルを作ろうと思った時、コースが分かりにくいので、足の形をしたペイントで誘導した例がある。足跡と船の形をしたペイントを辿らせてみなとまで誘導するというのはどうか。駅から新井田川を利用して船で港まで、山居倉庫まで行けるようにできれば良いのではないか。			
新井田川を運河ととらえて船での移動を活用してはどうか。商業高校跡地を再開発して船着き場を整備するのも良い。	山形県 酒田市 民間事業者	酒田市、山形県、民間事業者が調整を図りながら、実現可能なものから、取組んでいく。	中長期的課題
鉄道、舟運、道路を繋げたシーライン観光流動を創造したい。これは市民からの要望であり、酒田駅から貨物線等を利用して港まで移動できないかというもの。新井田川も活用し、駅から川、港、外洋と繋げて一大観光ルートがでないか。			
海鮮市場付近に来た時に保冷库が目に入るが、見た目が良くない。公募により壁面に絵を描いてもらうなどを考えてはどうか。			
酒田駅の構内にある北前船展示のデザインを変更する話。酒田まつりの写真などの展示を予定しているが、それに加えて酒田港についてのパネルを駅構内に置きたい。パネル全部を置くわけではなく、各時代の見栄えのする冒頭のパネル4枚を置いて、詳細は海洋センターで、と誘導することを考えている。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所	酒田港の写真と海洋センターへの誘導案内を駅に設置	対応中
酒田港の空撮写真を酒田駅に飾りたい。また港の中身をボードにして市内各所に貼りたい。	民間事業者		

< ②⑥ みなとオアシス酒田の課題について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
混雑時だけではあるが、何よりも駐車場が課題。遠いところに停めて、10分程度かけて歩いてくる方も多い。道路や漁組のところなど、一旦誰かが止め出すと、次々に止め、無法地帯となる。	山形県 酒田市 民間事業者	近隣事業者への要請等を行うとともに、イベント時の対応も調整する。	対応中
課題として、駐車場が挙げられる。駐車できないため逃している客もいると思われる。イベント時には、長期間停めているケースもあり、対応に苦慮した。			
待ち時間を有効に利用するためのシステム導入も検討して欲しい。時間の目安が分かれば、近隣の施設を見学したり、一度車で別の場所に行くことも考えられるなど回遊性が生まれる。駐車場の混雑緩和にも繋がる可能性がある。1台50万程度と高価なので店舗ごとに対応するのは難しい。		利用できる助成金があれば活用していく。また、現状での改善方法を検討する。	中長期的課題
酒田には若い子が何かしたい時に集まれる場所が無い。若い子達は、音楽やダンスの練習が出来る場所を求めており、例えば港で空きコンテナを貸しスペースとして利用できるような場所を作ることは出来ないか。		周辺との調和を図りながら、慎重に対応する。	中長期的課題

< ②⑦ 外国語表記について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
港湾に関する外国語表記の拡大	国 山形県 酒田市 “プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会外航クルーズ船誘致 部会	多言語表記に対応するように検討をすすめる。クルーズ船寄港時の岸壁内については、クルーズ船誘致部会で対応。	短期的課題
外国人の目線に立った標識・看板類の整備条例を作るべきでは。看板など3カ国語対応にするべきではないか。			

< ㊸ フリーWi-Fiについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
観光客には、WiFiの需要が高い。WiFiの有無が、宿泊先や観光地を決定する要素になっている。クルーズ船の寄港時のほか、みなとオアシスにも必要ではないか。	山形県 “プロスパー ポートさかた” ポートセールス 協議会外航ク ルーズ船誘致 部会	クルーズ船寄港 時にはポータブ ルタイプによる対 応も含め検討す る。 海洋センター前 には設置済み。	短期的課題

< ㊹ 海洋センターリニューアルについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
みなとオアシス関連では、海洋センターと海鮮市場の2階部分に渡り廊下や、エレベーターが欲しい。海洋センターの体験展示として、海の生き物タッチプールが欲しい。また、酒田港が外国に開かれていることや、そのメリット・デメリットを紹介するなど、港としての役割を極めさせるものであることが重要。	山形県	現行の建物に渡り廊下やエレベーターを設置することは困難。	中長期的課題
陳腐化した海洋センターが長年放置されており、リニューアルが必要。			
海洋センターのリニューアルに関して、県の財政状況もあり、長く展示が続いているものもあるが、資料も集まっており、外から来た人に分かりやすい施設。より魅力のある展示となり、小学生が修学旅行等で常に寄る施設となれば、港への理解が進む。岸壁や展望台で現地を見るのもよいが、学習できる施設も大事。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所 山形県	平成28年3月より、一部展示物をリニューアル、今後も徐々に改善作業を進める。	対応中
再生可能エネルギー学習センター(風力、バイオマス、太陽光など)や、北前船資料館(北前船の起点として関連の資料を展示)の設置。	酒田市		
酒田海洋センターを、みなとオアシス酒田のミュージアムのような場所にしたい。様々な展示物の他、動画を流すなども良い。			

< ⑩ 海洋センターの活用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
人集めに港を利用したい。海洋センターのところで山車の製作を行っており、製作場所として認知してもらいたいと考えている。積極的に見せていければよい。また、最近はやっていないが、ゴールデンウィークに海洋センター前に日吉丸を出し、その上に乗って写真撮影をできるようにしていた。子どもの頃から港に集まる仕組みを考えたい。	山形県 民間事業者	意欲的な民間事業者等と調整を図りながら、実現可能なものから、取組んでいく。	短期的課題 ～ 中長期的課題
みなとオアシス周辺には、飲み屋がない。海洋センターの屋上を活用できないか。外階段を付けるぐらいであれば、皆の力を合わせればできそう。できたら良いビジネスモデルになる。			
海洋センターの屋上の活用方法として、花火の際に解放するなどできないか。マス席などが準備できるとよい。			
海洋センターの1階倉庫には海側からの入口もある。海に開かれた飲食店にするなどの活用方法も考えられる。			

< ⑪ 飲食スペースの充実について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
ゆっくりと港を眺めたり、港を見ながら食事、交流する場所が少ない。	山形県 酒田市 民間事業者	意欲的な民間事業者等と調整を図りながら、実現可能なものから、取組んでいく。	短期的課題 ～ 中長期的課題
港のそばにも、屋台村テイストの洋風飲食店が欲しい。			
海鮮市場だけではなく、港周辺にもう少しお店が欲しい。港にオープンカフェを建ててはどうか。広島では川岸でコンサートを開催している例もある。			
ウッドデッキを、海を見ながらの食事などに活用できると良い。現状では夏を中心に使用されているが、4～5年前に使っていた日よけパラソルは、風により壊されたため現在は設置していない。補修が必要。			

< ③② 魚市場・浜焼きについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
魚が酒田港で水揚げされていることを市民や観光客に積極的に見せるような仕掛けを作ってはどうか。そうすることで酒田が新鮮な魚を食べられる港町であることを示せる。例えば月に1回「競り」をやるなど。	民間事業者	意欲的な民間事業者等と調整を図りながら、実現可能なものから、取組んでいく。	短期的課題 ～ 中長期的課題
港町のイメージとして、朝市などがある。下関などは、市場で購入したものを調理して食べるなど、昼前まで活気がある。			
漁協の近辺を会場に懇親会を行い、潮風を感じながら海鮮バーベキューを食べ、花火も見ると盛り上がった。こういった内容のものを、観光ルートとして設定できれば港町らしさを感じられるのではないかと。漁協上屋には屋根があり外部電源もあるため天候に左右されず、バーベキューなどができる。そういった時に山鉾を出せば光るので目立つし、観光客向けの演出にもなるのではないかと。			

< ③③ 大浜海岸の活用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
大浜海岸を恒常的に遊べる場所にして欲しい。北港展望台から大浜海岸への遊歩道もあると良い。	山形県 酒田市 「海の日」記念事業実行委員会	9月22日の大浜海岸ビーチイベントをきっかけに、大浜海岸に恒常的に人が集える仕掛けづくりを行う。	対応中
海水浴場の運営(ビーチスポーツの振興)、キャンプ場(マリン、ビーチスポーツ、砂防林保全の体験などを組み合わせた海洋体験学習の拠点)。			
カヤックに寛容な港になれば全国から人が集まってくると思われる。横浜港では今まで岸壁として使用していた場所が手狭になり、物流機能が別のところに移転した。跡地を親水空間として再開発している。			
大浜海岸にトイレと、砂を落とすための水場が必要。			
大浜海岸に人を呼ぶ仕掛け作りが必要。人を集め、バーベキューやドッグランなどの活用に繋がればよい。			

< ③④ イベントについて >

内容	対応者	対応方針	対応時期
ぶらタモリ的なぶら探を酒田でやりたい。JR東日本では、「駅からハイキング」というイベントを開催。それを港に繋げて、2つか3つのパターンを作って他の町歩きイベントでも活用したい。 また、シートゥーサミットやおしんレースなど酒田港を活用したイベントのブラッシュアップ(連携)。	東北公益文科 大学ほか	8月21日に「学生が考えた駅からハイキング」の一環として酒田港までの町歩きを実施。	対応中
インダストリアルツーリズムとの関連はいかがか。本元気会議とリンクしていただくように、願います。			
北港展望台から見える(コンテナターミナルの)荷積み風景などなかなか良いと思う。	国土交通省東 北地方整備局 酒田港湾事務 所	港湾業務艇による海からの見学も含めた酒田港見学会を随時実施中	対応中
記念事業として、子どもを対象に海から陸地を見せることも喜ばれるのでは。			
小学生向けにカヤックを通じた海とのつながりや地域の学習を今年度実施したが、来年度も実施見込み。「海」だけに特化せず「港」をテーマにしたものを考えていく。子どもには体験が必要。「工業的な港を見せられるのは酒田ならでは」との自負を持っていきたい。			
FDから背割堤を望む風景は大変すばらしかった。ああいう風なものをもっとPRしてはどうか。			
船舶を活用した「さかた湊夕日クルージング」をやって欲しい。海から夕日、鳥海山と港を見せたい。これは観光客だけではなく地元の方にも楽しんでもらいたい。	山形県 酒田市	(県)(無料)7月2日 (市)(有料)7月16日, 7月23日, 7月30日, 8月3日, 8月6日, 8月11日	対応中

< ㊸ 花火の打ち上げ場所について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
以前はもっと河口寄りで花火を打ち上げていた。花火を港で打ち上げたい。	国 山形県 酒田市	クルーズ船寄港時も含めて酒田港で花火を打ち上げることを検討していく。	短期的課題
海から上がる花火も面白い。防波堤での打ち上げとなれば、年1回は大浜海岸に人を呼ぶきっかけとなる。鶴岡も川で上げており、酒田も一緒になって川で上げる必要はない。差別化を図るためにも海から上げるようにしたら良い。			
最も強調してほしいことは、河ではなく、海と一体化した花火をやって欲しいということ。是非、酒田花火を酒田港であげて欲しい。			
地域のイベントとどのように港を繋げていくか。花火大会を港で行ってほしいと考えている。			

< ㊸ フェリーの寄港について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
フェリーの寄港を要望する。シニアは帰省、家族連れは旅行で需要がある。	山形県	フェリー誘致にかかる課題整理を行う。	中長期的課題
時折来る大型客船より、定航性のあるフェリーの方が経済的には有効。今後観光客を呼び込むためには、フェリーが重要。既存航路(新日本海フェリー)に酒田を追加してもらう必要がある。また他と差別化するためには対岸、ロシアなどとの外航フェリーが望ましい。ウラジオストックなどからの日本への最短ルートの一つは酒田港である。			
フェリーの話は、舞鶴・小樽航路への追加のほうが可能性があると考えている。寄港が実現すれば、物流にも活用できる可能性がある。			

5. その他

< ③⑦ 港の行政の進め方について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
<p>国、県、市、民間がみんなで酒田港利用を増やすような「チーム酒田」的な取組も必要ではないか。船社、港湾運送事業者、行政等の入った会議体というイメージ。</p>			
<p>市町村関係者は行政の枠組みにとらわれ過ぎ。他市町村にあるインフラ振興に無関心。庄内でも5市町が一丸となって酒田港の振興を図る体制が必要。</p>			
<p>酒田港に関しては中間行政の問題がある。今のチャンスをもものにするには、酒田港としてのまとまりが必要。ハード面、ソフト面を含め、元気で使いやすい酒田港検討会議を中心に議論して、現実味のあることから順番にブレイクダウン(実現化)していけば良いと思う。</p>	<p>国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所</p>	<p>本会議を中心に、民間事業者を含めた関係者との意見交換を定期的に行い、酒田港へのニーズ把握と迅速な対応を行っている。</p>	<p>対応中</p>
<p>酒田港に対するニーズについて、顕在化させ伝えることが必要。誰かが言わないとどこかで無くなってしまう。発言がニーズになり、それが国、県、市などの予算に反映されていくことにつながればいい。</p>	<p>山形県 酒田市</p>		
<p>親水空間である本港地区も含め、酒田港は地域の方との距離が近い。そのためもっと何かイベントを含め、子供達と海の近くで何かしようとしている方達がたくさんおられる。このような会議を通じて知恵を出し、地域の方を巻き込んでやっていると、関係者のモチベーションがどんどん上がっていくと思う。それで出てきたハード・ソフトの整備はきっと後世に残るのではないか。</p>			
<p>困っていることに対して、こうあるべきというあり方論を地方で大上段に構えても、それは上手くいかない。ニーズ＝困っていること、を集めて解決すること、それが解決されたという結果が共有出来ること、駄目なことは駄目と、はっきり示すことが大切。</p>			

< ③⑧ 情報発信について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田駅や庄内空港に到着しても、港があるのかどうかすら分からない、というのが酒田港の課題。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所 民間事業者	「酒田 みなとの歩き方」を酒田駅、庄内空港に設置するとともに、酒田港の写真と海洋センターへの誘導案内を酒田駅に設置	対応中
港町の最大で、最も分かりやすいランドマークは港や海そのものだが、酒田に住む人はその意識が希薄。観光誘客を考えると、その点をもっと改善すべき。			
駅では設置しているプラズマディスプレイに動画を流すことが可能。酒田港の動画を流せば、周辺の駅を含めてより多くの人の目に触れる			
北前船の歴史を大切にするのはいいが、過去の栄光にすがっている印象。今の酒田、これからの酒田の話をもっとPRすべき。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所	海洋センター一部展示物をリニューアル、今後も企画展等により情報発信を行う。	対応中
貨物の推移やクルーズに関する情報発信をどのようにしていくかが大きなテーマである。酒田港の情報発信の仕方が一つの課題	山形県 酒田市 民間事業者		
港湾利用による産業振興の実績をアピールすべき。港湾の活用が地域の活性化においていかに大きな役割を担い得るかをアピールすべき。酒田市以外の企業も酒田港を利用していることや、経済的な波及効果が広範に及ぶことについても同様。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所		
酒田港は山形県の重要港であり、継続的に県内へ情報発信していく必要がある。継続的なPR方法として、子どもへの教育カリキュラムに取り入れてもらうことが効果的ではないか。学校の先生が利用できるような、DVD等の学習素材を作成すれば良い。酒田市内の学校への出前講座や、見学会案内などでも活用できる。	山形県 酒田市 民間事業者	海洋センターでの企画展示や学校等への見学会案内を行っている。	対応中

< ③⑨ 港のあるべき姿 について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
酒田港は今後、①「エネルギー拠点」、②花王のような港に近いことがメリットである「製造業」、③まだ熟度は低い「農水産品の輸出」がポイントになると考えている。これまでのキーワードとして「リサイクル」もあるが、一つだけだと波があるため、複数の柱が必要だと思う。	国土交通省東北地方整備局 酒田港湾事務所 山形県 酒田市	本会議を中心に、関係者との意見交換を定期的に行い、酒田港あるべき姿を検討する。	短期的課題

< ④⑩ 施設整備について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
冬場に防波堤を越波してくる波による土地の浸食の問題がある。西護岸の背後にある土地の法面が年に数回大波で削られている。	山形県	状況の把握に努め対策を検討する。	短期的対応
護岸に亀裂が入るなど、かなり傷んできているため、そろそろ対応していただきたい。石油基地の安定運用のためにも、消波ブロックの数を増やしたりするなど適正な配置を要望したい。	山形県	港湾施設の長寿命化対策を実施する。	短期的対応
日本海側の造船所が少なく、山形県で2社、秋田と新潟に1社。混雑時は2週間待ってもらったこともある。少し大きな上架設備は億単位の費用がかかり、1社での対応は難しい。船の長さが長く対応できないものについては、県外の会社でメンテナンスしている。山形県なりで施設を整備してほしい。陸に揚げるとすれば斜路の他、船を上げる台車、ウィンチ、クレーン等が必要になる。	民間事業者	民間事業者において、需要、採算性をふまえ整備を検討すべきもの。	中長期的課題
小中島(現在の家岸)のあたりには高い建物が無い。県に頼んで、船台整備ができる鉄骨で組まれた構造体があれば避難にも役立つ。			

< ④ ① 道路網の活用について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
各港が連携すればより効率的なる。国としての大きな視野で石巻と酒田を連絡する高規格道路をと考えている。	国 山形県 酒田市	道路部局への働きかけを行う。	短期的課題 ～ 中長期的課題
港湾利用を促進するための環境整備(新庄酒田道路の整備など)が必要。			
物流に関して、港の整備だけでなく、その先の道路も大事である。内陸の人は、酒田港ではなく、仙台を見ている。道路を整備するにあたって酒田港は大事であるし、酒田港にとっても道路は大事である。			

< ④ ② 本港地区の水深について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
本港地区の浚渫が長らく行われていない。5千キロのオイルタンカーが袖浦3号岸壁に入ってくるが、水深が足りてない。	山形県	優先順位を付け浚渫を行う。	対応中
一番は水深の確保。本港の漁業区で水深が確保されていない。			
水深が計画通りでないと聞いている。山形県に登録している船ならば問題無いが、他県の船は入れないものがある。2基目のガントリークレーンを入れた時のように先行投資的に施設整備をすることで、入港数が伸びる可能性がある。			

< ④ ③ 漁船の入港について >

内容	対応者	対応方針	対応時期
本港地区をみると漁港の側面もある。各地を巡る船が1ヶ月で500～600隻あり、酒田で水揚げするが、係留できる場所がない。水揚げする港の決定は、主にコストや売値等の条件で決められるが、係留スペースがないと他港に流れていってしまう。着岸している船に、さらに横付けする形で2隻が係留することもある。	山形県	関係者と調整し、対応を検討する。	短期的課題 ～ 中長期的課題
イカ釣り船が10隻を超えると漁業区に収まらないため、袖岡岸壁を使用する。袖岡は大きい船に合わせてピットを立てているため、漁船にはピットの間隔が合っていない。係船環を付けてもらえればと考えている。また、水産第二岸壁には、トイレの設置や電源の問題などがある。現在5月から7月にかけて小型のイカ釣り船を120隻ほど受け入れているが、電源を取れる所が無い。簡易的な給電システムを水産第二岸壁に作って欲しい。			